

学校法人御船学園 令和7年度事業報告書

1. 法人の概要

I 法人の基本情報

法人の名称	学校法人御船学園
所在地	熊本県上益城郡御船町大字滝川字東原1658番地
電話番号	096(282)0506
FAX番号	096(282)7800
メールアドレス	info@heisei-music.ac.jp
ホームページアドレス	https://www.heisei-music.ac.jp/
設置する学校名	平成音楽大学

II 建学の精神

建学の精神 九州から音楽文化を発信する。

大学の目的 本学は、教育基本法及び学校教育法の精神に則り、次の項目の達成に努めることを目的とする。

4つの基本理念

- ①音楽芸術の真理の探究
- ②創造性豊かな心を持つ人間形成
- ③地域社会の音楽文化の発展に寄与する人材育成
- ④福祉の進展に寄与する有為な人材の育成

音楽学部音楽学科

音楽芸術の学修を通じて情操を高め、豊かな感受性と和の心を涵養し、想像力と健全な身体を養成すると共に、本学が音楽文化の発信地となることを目指す。

音楽学部未来創造学科

音楽のもつ美的情操や心理的情緒等の効用による感性を磨き、専門分野の研究・修養に励みながら、新しい時代を見据えて自ら創造的に未来を切り拓いていく人材育成を目指す。

音楽学部こども学科

乳幼児期に音楽が与える感性、美的情操や心理的情緒等の効用につき専門的に教育・研究し、保育園や幼稚園において適宜、適切に音楽を提示できる保育士、幼稚園教諭を育成することを目的とする。

昭和47(1972)年3月	学校法人御船学園設立認可
4月	初代理事長に出田憲二就任 熊本音楽短期大学開学 音楽科（入学定員：声楽専攻30、器楽専攻30 総定員120） 初代学長に出田憲二就任
昭和48(1973)年4月	教職課程開設 熊本音楽短期大学専攻科開設
昭和50(1975)年8月	運動場用地購入、平屋建て寄宿舍落成
昭和51(1976)年4月	音楽科定員増員 （入学定員：声楽専攻30、器楽専攻70 総定員200）
7月	2号館校舎落成
昭和53(1978)年2月	女子寮5階建落成
昭和56(1981)年2月	体育館兼演奏ホール落成
昭和59(1984)年9月	3号館校舎落成
昭和60(1985)年1月	4号館校舎落成
昭和62(1987)年10月	阿蘇研修所落成
平成9(1997)年9月	熊本音楽短期大学25周年記念 ニューヨーク・カーネギーホール公演
平成11(1999)年3月	第1回九州音楽コンクールを開催
平成12(2000)年12月	平成音楽大学設置認可 初代学長に出田敬三就任 音楽学部音楽学科教職課程認可(中学・高校一種免許(音楽))音 楽療法士(2種)：全国音楽療法士養成協議会認定
平成13(2001)年4月	平成音楽大学開学 音楽学部音楽学科（入学定員100人）
平成14(2002)年4月	全国音楽療法士養成協議会 音楽療法士(1種)認定校 指定 ミュージック・プロフェッショナルコース設置
平成17(2005)年3月	音楽学部幼児音楽教育学科指定保育士養成施設指定 音楽学部幼児音楽教育学科教員免許課程認可 （幼稚園教諭一種免許状） 音楽専攻科教員免許課程認可 （中学校・高等学校教諭専修免許状(音楽)）
4月	学校法人御船学園理事長に出田敬三就任 音楽学部幼児音楽教育学科開設（入学定員30人） 音楽学科入学定員変更（100人→70人） 音楽専攻科（入学定員10人）開設
平成18(2006)年7月	音楽棟（CREA-M棟）落成
平成19(2007)年10月	コミュニティーセンター落成
平成21(2009)年11月	全国音楽療法士養成協議会 音楽療法士(2種)認定校 指定
平成22(2010)年6月	韓国新羅大学校芸術大学との姉妹校提携

10月	熊本市キャンパス・サテライトステージ設置 附属音楽教室開講
平成24(2012)年4月	幼児音楽教育学科を「こども学科」に名称変更
平成28(2016)年3月	女子寮を閉鎖
4月	熊本地震にて大規模な被災
6月	新駐車場完成
平成29(2017)年4月	入学定員を変更 音楽学科 70人 → 60人 こども学科 30人 → 40人
11月	御船町と連携協力に関する包括協定書締結
平成30(2018)年3月	新学食・カフェ棟MUSIC PARK落成
令和元(2019)年7月	中国ハルビン学院と協力交流協定締結
8月	新本館、トータルミュージックスタジオ完成 旧本館復旧工事完了
令和2(2020)年3月	公益財団法人熊本県立劇場と学校法人御船学園平成音楽大学の 連携に関する包括協定
9月	熊本市キャンパス・サテライトステージを閉鎖
令和3(2021)年4月	学校法人御船学園理事長に出田雄人就任
令和4(2022)年4月	入学定員を変更 100人 → 80人 音楽学科 60人 → 50人 こども学科 40人 → 30人
令和5(2023)年4月	こども学科を「未来創造学科」に名称変更
令和6(2024)年4月	学長に出田雄人就任

IV 設置する学校・学部・学科等

設置する学校	学部	学科	コース
平成音楽大学	音楽学部	音楽学科	声楽、ピアノ、管弦打楽、作曲、 ミュージックパフォーマンス、 電子キーボード、サウンドデザイン、 音楽教育、音楽療法
		こども学科 未来創造学科	－ こども文化、声優

平成音楽大学 音楽専攻科	音楽専攻	声楽、ピアノ、管弦打楽 作曲、ミュージックパフォーマンス 電子キーボード、サウンドデザイン 音楽教育、音楽療法
平成音楽大学 ミュージック・プロフェッショナルコース (M. P. C.)		声楽、ピアノ、管弦打楽、作曲 電子キーボード、サウンドデザイン

V 学校・学部・学科等の入学定員、学生数の概要

(令和7年5月1日)

学部等	学科	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
音楽学部	音楽学科	50	39	200	129
	未来創造学科 こども学科	30 —	31 —	120	104
	計	80	70	320	233
音楽専攻科		10	6		
ミュージック・プロフェッショナルコース (M. P. C.)		—	4		

VI 収容定員充足率

(各年度5月1日)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
収容定員充足率	53.8%	60.5%	63.1%	69.4%	72.8%

現員数(在籍学生数)÷収容定員(全学年の定員数)

VII 役員の概要

理事 現員7名(定員5名以上8名以内)

(令和8年3月31日)

	氏名	選任 条項	就任年月	常勤・非 常勤の別	主な現職等
	出田 雄人	1	平成29年12月	常勤	(学)御船学園理事長、平成音楽大学学長
	大島 紀雄	2	平成21年4月	非常勤	パールクローズ(同)営業部
	出田 節子	2	令和3年1月	非常勤	(医)出田会理事長
	片桐 英夫	2	平成29年12月	非常勤	(株)寺原自動車学校代表取締役社長
	米澤 房朝	2	平成30年12月	非常勤	(株)ヨネザワ代表取締役会長
	亀井 裕子	2	令和6年4月	常勤	平成音楽大学未来創造学科長
	宇都 香織	2	令和6年4月	常勤	平成音楽大学事務局長

監事 現員2名(定員2名)

	宮田 房之	令和7年6月	非常勤	宮田総合法律事務所 弁護士
	中田 泉	平成29年12月	非常勤	元平成音楽大学事務局長

IV

評議員の概要

評議員 現員9名（定員6名以上9名以内で理事の実数を超える数）（令和8年3月31日）

氏 名	選任 条項	就任年月	主な現職等
楢山 範夫	1	令和7年6月	平成音楽大学音楽学部長
柏尾 剛徳	1	令和6年4月	平成音楽大学音楽学科長
松島 里絵	2	令和7年6月	フルート奏者・(株)大谷楽器講師
木庭 英太郎	2	令和7年6月	(福)三玉福祉会理事長
柴田 和男	3	平成29年12月	(株)オオバ取締役
野中 建光	3	令和元年8月	野中絵里子税理士事務所副所長
山本 浩章	3	令和元年8月	(株)山本ダンボール代表取締役社長
河津 悦雄	3	令和2年12月	河津酒造(株)代表取締役会長
沖田 昌史	3	平成5年12月	(福)南苑会理事

IX

教職員の概要

（令和7年5月1日）

本務教員数 (専任教員)		計	教授	准教授	講師
	音楽学科	11	6	2	3
	こども学科 未来創造学科	7	3	1	3
	計	18	9	3	6
兼務教員数（非常勤教員）		96			
事務職員数		14			

平均年齢

本務教員(専任教員)56才〔前年比-0.9歳〕、事務職員41才〔前年比-1.8歳〕

2. 事業の概要

I 平成音楽大学の目的

大学の目的

本学は、教育基本法及び学校教育法に則り、広く知識を授けるとともに、音楽芸術の真理の探究と技術の練磨を教授研究し、創造性豊かな心を持つ人間形成を図る。もって人類の文化と福祉の進展に寄与する有為な人材の育成を目的とする。

4つの基本理念

- ①音楽芸術の真理の探究
- ②創造性豊かな心を持つ人間形成
- ③地域社会の音楽文化の発展に寄与する人材育成
- ④福祉の進展に寄与する有為な人材の育成

教育及び研究の目的

音楽学部音楽学科

音楽芸術の学修を通じて情操を高め、豊かな感受性と和の心を涵養し、想像力と健全な身体を養成すると共に、本学が音楽文化の発信地となることを目指す。

音楽学部未来創造学科

音楽のもつ美的情操や心理的情緒等の効用による感性を磨き、専門分野の研究・修養に励みながら、新しい時代を見据えて自ら創造的に未来を切り拓いていく人材育成を目指す。

音楽学部こども学科

乳幼児期に音楽が与える感性、美的情操や心理的情緒等の効用につき専門的に教育・研究し、保育園や幼稚園において適宜、適切に音楽を提示できる保育士、幼稚園教諭を育成することを目的とする。

II 学士課程教育における方針（3つのポリシー、アセスメントポリシー）

本学では、建学の精神および教育目的に基づき、育成する人材像や教育上の目的に沿って「ディプロマポリシー（学位授与の方針）」「カリキュラムポリシー（教育課程編成と実施の方針）」「アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）」および「アセスメントポリシー」を定めている。

各ポリシーの詳細は、本学ホームページを参照。

(<https://www.heisei-music.ac.jp/educational-philosophy-spirit-of-construction/>)

平成音楽大学の使命・目的を達成するため、令和7年度から令和11年度までの5ヶ年による中期計画を策定した。この中期計画に基づいて年度ごとの事業計画と予算を作成し、PDCAサイクルを機能させて使命・目的の実現のため継続的な努力を行う。

理事の役割の明確化

理事7人のうち学内理事が3人、外部理事が4人となっている。そのため学外からの視点による意見を取り入れやすい状態である。令和7年度は理事会を6回開催し、理事および監事の出席状況は80.0%と概ね良好であった。また学内理事3人による常勤理事会では、日々の軽微な課題を解決することができた。

監事機能の充実

監事は会計年度始めに監査計画書を作成し、これに沿って法人の業務、財産の状況、理事の業務執行の状況について監査を行った。監査にあたっては会計監査人と定期的に情報交換を行うとともに、関連部署の担当者より状況を聴取するなどして充実させた。

評議員会機能の充実

予算・事業計画をはじめとする法人の業務に関する重要事項について、理事会における決議の前に、理事長があらかじめ評議員会の意見を聴いている。また、決算及び事業の実績について、会計年度終了後2月以内に理事会における決議を経た後、評議員会へ報告し意見を求めている。令和7年度は5回開催し、評議員の評議員会への出席状況は87.3%と概ね良好であった。

内部質保証

内部質保証は「大学自らの自己点検・評価」と「認証評価機関による認証評価」による。大学における教育研究の質保証は、大学と文部科学省、及び認証評価機関の三者によって担うことになる。

「大学自らの自己点検・評価」は、自己点検・評価委員会、FD委員会とIR室が連携し、おもに「学生による授業評価アンケート」「学生満足度調査」「卒業年次生への意識調査」の集計結果の分析、アドミッションポリシーを踏まえた入学者選抜結果の検証、GPA分布の分析等により行った。

7年に1度受審する「認証評価機関による認証評価」は令和4年度に受審して認定を受けている。日本高等教育評価機構が定める大学評価基準への適合認定を受けたことは評価書とともにホームページにおいて公表している。認定の際に改善が必要と評価された事項についても対応を完了した。

外部評価委員会

自己点検・評価と内部質保障に資するために平成音楽大学外部評価委員会を設置している。本学の教育活動に関わりを持ち、日常的に観察しながら客観的に評価できることを条件として、御船町教育長、熊本県立御船高等学校校長、社会福祉法人恵寿会統括施設長、一般社団法人御船町観光協会会長、The Legato inn MIFUNEマネージャーらを委員として委嘱している。

10月に開催した会議では以下の事項について情報共有を行い、概ね好評であった。

- ・令和6年度の就職率及び就職先について
- ・学生との教育活動について
- ・入学者数及び在籍者数について
- ・御船町との連携活動について

レッスン及び講義（教育課程の進化と学習環境の充実）

本学の強みである少人数教育による個別対応を活かしつつ、新たに6つの能力（人間性・知識・思考・技能・表現・社会参加）を柱としたディプロマポリシーに基づき、カリキュラムの見直しと授業運営の改善を進めた。講義においては、「文化芸術論」や「フレッシュマンゼミ」等の教養科目を通じて音楽と教養の融合を図り、初年次からの人間形成と進路意識の醸成を支援している。また、実技教育を支える環境整備として、声優コースの演習棟のリノベーションや、学生が広く利用できる録音・収録対応スタジオの新設を実施し、創造力と表現力を引き出す先進的な学習空間の構築を図った。

実践的学修と演奏活動（社会との接点を活かした学修成果の発表）

学生の学修成果発表の場として、年間を通して学内外で定期演奏会や各コースの発表会等を多数実施した。コンクールでの上位入賞に向けたサポートも引き続き強化している。また、令和7年度の新たな実践的取り組みとして、地元企業や地域の文化施設等と協働し、社会との接点を活かした体験学修や職業体験の機会を設けた。音楽や各専門分野のスキルを実社会でどのように活かせるかを学ぶ実践的なプログラムを提供し、学生の多様なキャリア形成を支援した。

教育指導体制の強化とFD・SD活動

教育の質向上と教員組織の活性化を目的として、全開設科目における「学生による授業評価アンケート」や、教員相互の「授業公開」を実施し、「主体的・対話的で深い学びの実現」とICTの効果的な活用に向けた授業改善に取り組んだ。さらに、デジタル音楽やメディア系音楽などの多様な領域および時代の変化に応じた教育を提供するため、専門性の高い実務経験者の登用や、現職教員に対するリスキリングの機会提供など、全学的な教員体制の充実と指導力の強化に努めた。

奨学金制度

入学者選抜における成績優秀者に対する特待生制度や、在学生の成績優秀者に対する学長奨励生・特別奨学生制度、および音楽専攻科への入学金免除を実施し、学生の意欲向上と修学継続に向けた支援に努めた。

また、本学独自の取り組みとして、家庭の経済状況に鑑みて免除額を決定する給付型の「経済支援奨学金制度」を実施し、経済的理由で就学が困難な学生に対するサポート体制を提供している。

相談室、学校医・養護教諭

健全で快適な学生生活をサポートするために相談室を設置し、専門のカウンセラーと専任教員が連携してその任にあたっている。また、学校医や養護教諭にも常時相談できる体制を整えている。年度初めにはUPI（精神健康調査）を実施するほか、学生の心身の健康や修学・進路等の多様な悩みに広く対応し、個々の学生の状況に応じたきめ細やかなサポート体制を提供した。

キャリア支援

学生のキャリアサポートのため、全学年を対象とした進路希望調査を早期から実施し、学生の進路意識の醸成を図った。また、就職委員による定期的な個人面談や個別面接指導に加え、外部企業と連携した就職支援講座や各種企業・団体説明会を年間を通して実施し、学生一人ひとりの希望進路実現に向けた実践的かつきめ細やかなキャリアサポートを展開した。

VI

学生募集、広報戦略

入学定員・収容定員充足率

令和7年度の入学者数は70名、在籍学生数は233名となった。これに伴い令和7年度の収容定員充足率は72.8%となり、前年度（69.4%）から順調な上昇を見せている。少人数教育による個別対応力や特色ある専門カリキュラムの強みを最大限に活かし、引き続き安定的な学生確保に向けた取り組みを推進している。

ターゲット地域へのアプローチと留学生の受け入れ拡大

これまでの広報施策に加え、地元からの進学ニーズが増大している南九州エリア（鹿児島・宮崎・大分等）での高校訪問を重点的に強化するなど、広域からの志願者確保に成果を上げている。また、留学生募集の強化として、令和7年度には新たに中国・上海の音楽高校と提携したほか、中国・浙江省の大学との交換留学協定を締結し、多様な地域からの学生受け入れ体制をさらに拡大している。

学生募集のための体制構築とデジタル広報の強化

オープンキャンパスについては、年間を通じた継続的な開催に加え、オープンキャンパスを盛り上げる学生スタッフサークルの創設を行った。特に学生によるオープンキャンパスでのキャンパスツアーは大変好評であり、アンケート結果ではキャンパスツアーの満足度は常に90%を超える人気があった。その他、個別相談対応の充実、体験授業の拡充などプログラムの大幅な改善を図り、出願率の向上に繋げている。また、デジタル広報の強化として、Instagram（META社）でのWEB広告の配信を実施。WEB広告のみならずInstagram、X等のSNSでの投稿も継続的に実施し、キャンパスライフや模擬授業、在学生が出演する短尺動画などを配信することで受験生の認知と志望度を高めており、SNS経由の出願も増加傾向にある。公式SNSのフォロワー数も着実に増加した。

また、入学時スカラシップ制度の拡充を図り、経済的事情に関わらず有能な学生を確保する体制が機能している。さらに施設面においても、声優コースの演習棟（リノベーション）や、学生が利用できる録音・収録対応スタジオの新設を計画通りに進めており、次世代のニーズに応える教育環境の魅力を広くアピールしている。

地域社会との連携および演奏活動の推進

本学は「九州から音楽文化を発信する」という建学の精神に基づき、地域社会との協働を通じた実践的な教育活動と社会貢献を推進している。年間を通して多数の演奏会や公開講座を実施し、学生の実践的なキャリア形成の場とするとともに、地域の皆様に音楽の魅力を提供した。

【令和7年度の主なトピックス】



株式会社コアミックスとの包括的連携協定の締結

クリエイティブ分野で活躍できる人材の育成と地域社会・産業への貢献を目指し、株式会社コアミックスと「包括的連携に関する協定」を締結した。本協定に基づき、令和9年度に予定している「声楽・ミュージカルコース」への名称変更を見据え、同社が運営する劇場や歌劇団を実践的な学びのフィールドとして活用するなど、相互の強みを活かした新たな教育展開を推進していく。



明治大学マンドリン倶楽部熊本演奏会への出演と特別共演

熊本市民会館シアーズホーム夢ホールにて開催された「明治大学マンドリン倶楽部熊本演奏会」に、本学吹奏楽団が出演した。単独での復興祈念演奏を披露したほか、両団体による特別共演を実施し、多数の来場者に向けて日頃の研鑽の成果と音楽の魅力を発信した。



JHS上海常青学校（中国・上海）との協力協定締結

日中間における音楽人材の育成と国際的な進学ルートの構築を目的とし、中国・上海のJHS上海常青学校と音楽教育分野における協力協定を締結した。同校において日本の音楽大学進学に向けた指導を行うとともに、同校を本学の「指定校」として位置付け、優秀な留学生受入れのための支援体制を整備した。



熊本県立劇場での第53回定期演奏会

大学を挙げての大規模な演奏会を実施。学内オーディション合格者による演奏や、オーケストラや合唱など、学生たちが日頃の研鑽の成果を披露し、多くの来場者から高い評価を得る。



御船町との連携による地域音楽祭

御船町との包括連携協定に基づき、町主催の音楽イベントでの演奏や、町内小中学校での学習支援ボランティア等を実施。地域社会との接点を活かした体験学修を通じて、学生の社会参加意識と実践力を高めている。



地域イベントへの出演と実践的学修

「第44回熊本市青少年健全育成大会」等の地域イベントに多数出演。実社会のステージでの演奏経験を通じて、音楽や専門スキルを社会でどう活かすかを学ぶ貴重な機会となった。

令和7年度平成音楽大学と御船町の包括協定連携事業

No.	事業名	事業内容	実施時期	備 考
1	教育支援活動	町内の小中学校において、教職課程を履修する2・3年次の学生が学習支援ボランティアの活動を行った。	6月～ R8年3月	教職課程を履修する26人の学生が、課業日において週1回、1～2時間の学習支援ボランティアを行った。
2	教育支援活動	みふねジュニアブラスバンドの活動に、教職課程を履修する管弦打楽コースの学生が指導補助のボランティアを行った。	6月～	4名の学生が週1回1～2時間指導補助を行った。
3	演奏活動	・12月に開催した第53回定期演奏会において御船中学校、御船高等学校の生徒をはじめ地域住民の方を演奏会に招待し、日頃の研鑽成果を披露した。 ・社会福祉法人ひまわり学園において音楽教育コース学生がクリスマスコンサートを実施し、演奏を披露した。	12月11日 12月3日	演奏会や慰問演奏を実施し、日頃の研鑽成果を披露した。
4	高等学校授業参観	御船高等学校において、教職課程を履修する4年次の学生が授業の一環として授業参観を行った。	11月17日	教職課程を履修する4年次の学生が音楽科の授業を参観した。
5	地域連携活動	・小坂小学校の歓迎遠足において本学施設を開放し全校生徒が来学した。学生によるコンサートも実施し、児童との交流も行った。 ・幼保連携型認定こども園 にじいろのまりの自然観察と遊びの会場として園児たちが来学し、季節の変化を体感し学んでいる。	4月11日 11月～	キャンパスを開放し、地域の園児・児童・生徒が来学し、地域に開かれた大学としての活動を行っている。
6	認知症サポーター養成講座	町内の特別養護老人ホームにおける介護等体験の一環として、教職課程を履修する3年次の学生が認知症サポーター養成講座を受講し、その資格を得る機会を設けた。	9月上旬	8月29日～9月2日及び9月5日～9月9日の各5日間に実施した介護等体験において、内容の一環として認知症サポーター講座を受講した
7	広報事業	御船町及び小中高校へ大学の情報を提供して、町民の皆様へ平成音楽大学の活動をPRした。	4月～	大学の各種行事の広報活動を実施した。
8	音楽祭及び地域行事への参画	・御船町主催「Music Fair in MIFUNE」という音楽イベントを平成音楽大学内で開催した。御船町文化協会主催の文化祭も音楽部門はこの日に合わせて行った。開催日は平成音楽大学の学園祭期間として、学生と町民の交流を図った。 ・御船町主催の「ブルック音楽祭」において、企画段階より学生が実行委員として参画し、運営に携わった。 ・御船町の夏祭り「があーっぱ祭り」において、企画段階より学生が実行委員として参画し、運営に携わった。	10月26日 10月12日 8月17日	・御船町の園児、小学生、中学生、高校生、町文化協会所属合唱団と本学学生の総勢300人となる音楽イベントとなった。 ・コンテストや音楽ステージが実施され、家族連れなどでにぎわった。 ・企画、運営のほか司会を務める等、学生が企画・運営に携わった。

演奏会・セミナー等

名 称	実施日	会 場
ファゴット・オーボエセミナー	5月17・18日	本学
吹奏楽コンクール課題曲講習会、 吹奏楽演奏会	7月5日	嘉島町民会館ホール
宮谷理香×佐藤美香 ピアノコンサート&レッスン	8月5日	本学
声優コース特別講座 公開アフレコ体験	8月30日	本学
第20回熊本暮らし人まつり みずあかり「みずあかりコンサート」	10月11日	加藤清正公銅像前広場
2025学園祭 平成音大祭	10月25・26日	本学
Music Fair in Mifune	10月26日	本学体育館
2025ピアノフェスティバル	11月19日	本学ベートーヴェンホール
第53回定期演奏会	12月11日	熊本県立劇場コンサートホール
2025年度音楽制作学生によるライブコン サート『音 創造』	R8年 1月14日	本学ミュージックパーク
平成音楽大学 声楽コース学生による VOCALコンサート	1月21日	本学ベートーヴェンホール
令和7年度平成音楽大学こども学科卒業公 演 こどもミュージックフェスティバル	1月25日	嘉島町民会館ホール
令和7年度 卒業・修了演奏会	3月13日	本学ベートーヴェンホール
第28回九州音楽コンクール	3月21・22・26・ 27・28日	本学ベートーヴェンホール、 O.O. スタジオ、ミュージック パーク

(※詳細な演奏会日程・地域連携実績の一覧は、本学Webサイトにて公開しています)

VIII

校地・校舎の状況

	昨年度所有分	増加分	減少分	本年度所有分
校地	35,834㎡	0㎡	0㎡	35,834㎡ (内借用1,162㎡)
校舎	10,882㎡	0㎡	0㎡	10,882㎡

3. 財務の概要

別資料「令和7年度財務計算に関する書類」参照